

理論と実験、溝と橋渡し

石北研に来て、本当に凄いことだと思ったのは、今まで、実験データのみでは、憶測ぐらいにしか言えなかったことが、タンパク質の構造を元に計算し、検証できることである。実験データを分子軌道やエネルギー準位から説明できたとき、「ああ！こんな仕組みだったんだ！」と思ったのは、今でも忘れられない。このような経験から、論文の実験データの見方は、実験データそのものから解釈できることに加え、分子軌道やエネルギー準位がどう変化しているのかを意識するように、変わった。

・・・「あるタンパク質の機能を理解するために、全く異なるタンパク質の解析で得た知識や経験が必要だった」という。ならば、「全く関係ない研究分野の研究技術が、自身の研究を発展させるために必要」ということもあり得るだろう。・・・